

餅を擲く前に一回田の米 山田真砂年

蒸し上がったもち米を、擲く前にちよつと味見してみたのだろう。誰も餅擲きをしたりとはあるが、思ひつかなかつた。俳人らしき好奇心の旺盛ではないか。

「稻」3月号より。